

交渉経緯を反故にするな！ 不当労働行為をやめろ！



国労西日本

国労西日本本部

NO. 374

発行責任者 植田 重信
編集責任者 大北 真也

国労西日本HP



国労西日本 検索



情報発信アプリを
活用しています。
ぜひ登録を！

交渉等の席においての発言は 文章と同じく重いものである！

隠蔽体質が正義か！
変わらぬ企業体質！
その場しのぎで安易な発言
嘘で乗り切ろうとするな！

JR西日本会社の交渉において、我々労働組合が交渉で確認していることを「そんなものはない」というような態度がとられています。

しかし地方の交渉において、本社・本部門で確認をした施策の中身については「そんなことは言っていない」として確認していることを反故にする発言がさげで交渉を行なっており、責任ある立場の交渉委員が確認事項を勝手に変えるなんてあり得ません。我々はしっかりと交渉の場において現場の労働者の立場を確認をしています。



この間の労働協約改正交渉において「団体交渉の席上で主張した言葉は文言になっただけでなく、事実上でも決まらず、（国労西日本No.342参照）も文章と変わらぬ重要なポイントを確認してきて

まし、確認してきて、この間の労働協約改正交渉の席上で主張した言葉は文言になっただけでなく、事実上でも決まらず、（国労西日本No.342参照）も文章と変わらぬ重要なポイントを確認してきて、この間の労働協約改正交渉の席上で主張した言葉は文言になっただけでなく、事実上でも決まらず、（国労西日本No.342参照）も文章と変わらぬ重要なポイントを確認してきて



んし、あつてはならぬこと。何の為に団体交渉だったのか、本社・本部門で決めたことを地方において変

部間の交渉は必要が無くなってしまいます。丁寧な対応を求めろ！

「謝れば済むんだ」そのような態度でいいのなら、現場の労働者も悪いことをしても謝って済む環境になります。これからは労働組合も施設内で堂々と組合運動が出来ますよね！それこそが本来の姿であると思えますが……。

がん保険にできることを、もっと。

「生きる」を創るがん保険 WINGS No.1

幅広い保障による経済的な安心に加え、さまざまながんの悩みの解決をサポートするがん保険

ポイント1 幅広い保障で経済的負担をサポートします。

治療前の検査から治療後の外見ケアまで幅広い保障でしっかり備えることができます。また、公的医療保険制度の対象とならない新しい治療なども保障し、がん治療の選択肢が広がるようサポートします。

ポイント2 付帯サービス＜アフラックのよりそうがん相談サポート（*）＞ 「アフラックのよりそうがん相談サポーター」がさまざまながんの悩みの解決をサポートします。

よりそうがん相談サポーターは、がん患者様のご相談サポートの経験がある看護師・社会福祉士等のメンバーで構成された専任のサポートチームです。お一人おひとりによりよい、信頼できる情報やサービスのご案内を通じて、納得のいく治療・療養生活や意思決定を実現できるようご支援いたします。

（*）アフラックのよりそうがん相談サポートはHatch Healthcare株式会社が受託するサービスであり、アフラックの保険契約による保障内容ではありません。サービスの詳細は、アフラックオフィシャルホームページ <https://www.afac.jp/keiyaku/gansoudansupport.html> をご確認ください。

©商品およびサービスの詳細は「パンフレット」「契約概要」などをご確認ください。

（募集代理店）アフラックは代理店制度を採用しています
アベニール株式会社
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

（引受保険会社）
「生きる」を創る、アフラック
東京第二法人営業部
〒163-0456 東京都港区西新橋2-1-1 新橋三井ビル20階
TEL.03-6385-9829

原発再稼働反対！ 原発事故を忘れるな！

核と人類が共存できないことは明らかである

国労フクシマ交流 視察学習会に参加

国労本部主催の第12回国労フクシマ交流・視察学習会に初めて参加をさせていただきました。たいへん有意義な交流・視察学習会になりました。



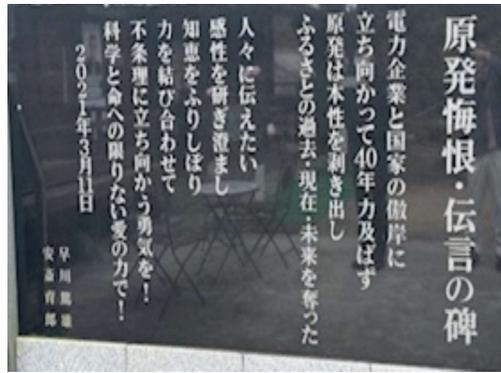
最初に訪れた「いわき震災伝承みらい館」では、当時の悲惨な状況を映像や展示物を見て改めて報道されていたことを思い出しました。伝承みらい館を見学後バスに乗りながら語り部の方の分かりやすい説明を受け、津波の恐ろしさを改めて感じました。



そして震災の教訓で減災に向けた町づくり計画に沿って造成された公園や整地された住宅を視察し、被災地の現状や被災者の思いを知る事ができました。

地震大国である日本において津波被害は他人事ではありません。どこに住んでいても地震の被害とは常に隣り合わせだということをお我々は肝に銘じておかなければならないと感じました。

続いて榎葉町の宝鏡寺伝言館へいきました。核被害の生々しい写真や絵、そして原発悔恨・伝言の碑を見て、資源の乏しい日本でどちら



ながら大量殺戮しか用途のない核爆弾の存在は人類存亡の危機を煽るだけであり、決してその存在が許されるものではないものだと考えさせられました。

複数の講演を受講し 多くを学んだ二日間

現在も福島第一原発事故の放射能被害に苦慮している地元の学生や自治体に要望を出している県議会議員や市議会議員の話聞き、数ミリグラムの燃料デブリを取り出すのに13年近く経過しているのに、880トンもある燃料デブリを完全に除去するのが早いのか、人間が滅亡するのが早

いのか正直見当がつかなくなった。今回の視察学習会で、広島・長崎・ビキニ・チェルノブイリ、そして福島で起こったことを決して繰り返してはならない、そして地震津波の減災・免災がいかに大事か、平時の今だからこそ考えないと。 (参加者感想)

かと言えば原発容認であった私も、完全に核を制御できない現状で核に依存・共存することはできないと考えを改めさせられました。これまでに人類がパーフェクトに完成させてこれ以上開発の余地がないもの一つに「核爆弾」があると聞いた事があります。しかし

去るのが早いのか、人間が滅亡するのが早

あの日から30年 1・17阪神・淡路大震災



1995年1月17日(火) 5時46分、兵庫県淡路島北部沖にてマグニチュード7.3の大震災が発生しました。6,434人の犠牲者を出し、第2次世界大戦後に発生した自然災害では東日本大震災が発生するまでは最悪のものでありました。

南海トラフ巨大地震が発生する可能性が高く、防災意識をしっかりと持つことが必要です。

